



令和6年度 八王子市立恩方第一小学校 学校経営報告

恩方を心のふるさとに

「児童も教師も保護者も地域も 誰もが成長を実感できる学校づくり」

今年度の経営計画より

I 目指す学校

子供たちが育つ学校 期待を込めて、根気よく、楽しく

- (1) 成長への期待を込めて学べる学校。成長を実現するために根気よく、楽しく学べる学校
- (2) 児童を取り巻くすべての大人（教職員・保護者・地域）が、ともに児童の成長を支える学校
- (3) 教職員が教育活動のさらなる充実のために、指導力を高め、組織的に取り組む学校

教育目標

人権尊重の精神に基づき、心身ともに健康で、協調・協働・共生の社会連帯意識や国際的に広い視野をもち、地域社会で主体的に行動できる、人間性豊かで生きる力をもった児童の育成

目指す児童像

- よく考える子（知）………確かな学力を身に付け、深く考えて行動する子
- ◎思いやりのある子（徳）…豊かな心をもち、互いに認め合い、助け合う子
- じょうぶな子（体）………何事にもくじけない気力と体力を身に付けた健やかな子
- よく励む子………自分を伸ばすための努力を惜しまず、ねばり強く積み重ねていける子

II 学校経営の基本方針

ア 「よく考える子」を育成するために、学びの質を高め、確かな学力を育む教育を推進します。

- ① 基礎的・基本的な知識・技能を習得する学習活動とそれを補完する取組の充実を図ります。
- ② 学びのスタンダードにより学習規律を徹底し、きめ細かな教育活動の充実を図ります。
- ③ 学習した知識や技能の活用を図る学習活動及び探究活動を充実させます。
- ④ 体験活動を充実し、様々な人とのかかわりを通して、主体的に学習に取り組む態度を養います。
- ⑤ 子供一人一人の学習状況に応じた指導の工夫、学習環境の工夫、指導評価の改善を行います。
- ⑥ 「恩一小150選」を通じた読書活動の充実を行います。
- ⑦ 1人1台のタブレットの効果的な活用を図ります。
- ⑧ ふるさと恩方の地域資源を活用し、郷土学習を通して、恩方への愛着等を深めていきます。

イ 「思いやりのある子」を育成するために、豊かな人間性や規範意識・社会性を育む教育を推進します。

- ① 道徳教育をはじめ全教育活動を通して、自己の生き方について考えを深める学習を行います。

- ② 特別活動をはじめ、あらゆる教育活動を通じて、自分や友達のよさや、自己肯定感の高まりを感じられる活動を推進します。
- ③ いじめをゆるさない学校にします。
- ④ 特別な支援を要する児童について、組織的に対応できる指導体制の充実を図ります。
- ⑤ 地域に関わる教育活動を充実させ、地域を愛し、地域社会の一員であるという自覚を高めます。

ウ 「じょうぶな子」を育成するために、安全な生活、健康の保持増進・体力を育む教育を推進します。

- ① 体育の学習や体を動かす活動を通して、スポーツへの興味・関心を高め、望ましい運動習慣を育てます。
- ② 保健教育、食育の意図的・計画的な推進を図り、望ましい生活習慣、食習慣を育てます。
- ③ 危険予測・危険回避の能力を身に付けさせる安全教育を充実させます。

エ 学校運営協議会の運営を活性化し、家庭・地域・学校間の連携を深め、教育内容の充実と公開を推進します。

- ① ８年目となる学校運営協議会の運営を活性化します。
- ② 小中一貫教育、保育園との連携を充実させます。
- ③ 地域に人材や教材を求め、地域の教育力を活用した教育を推進します。
- ④ 学校の基本姿勢・教育活動をPRする情報発信の活性化を図ります。
- ⑤ 学校評価及び各種アンケートを学校改善に積極的に生かします。

オ 組織力の高い学校を創ります。

- ① 指導力向上のための教員の研修機会を増やします。
- ② 校務支援システムを利用した情報共有を推進します。
- ③ 校務分掌を見直し、学校運営の改善を図ります。
- ④ 教職員が信頼し合い、補完し合える環境を整えます。

令和6年度の取組目標と方策に対する取り組み状況についての報告

目標		具体的方策	評価項目（判断方法）
児童	確かな学力の育成	①ねらいを達成する授業の実施 ②習熟度別算数授業の確実な実施 ③基礎学力向上のための、八王子市学力定着度調査やはちおうじっ子ミニマムの実施 ④読書活動の充実	①ねらいを達成する授業実践を週5割以上（教員の自己評価） ②全学年（1学級2展開）の通年実施（実施率） ③児童一人ひとりの課題に応じた指導の実施と習得状況の把握。（それぞれ年2回の結果） ④全学年で「恩一小150選」の読書活動の継続実施（通年）
		経過・達成状況	
		○ねらいを達成するための方策として、教員の自己評価を基にした数値化を振り返りの手立てとしていたが、定着は難しかった。だが、授業づくりにおいて、ねらいをもつこととその達成を確かめる振り返りは重要である。今後は、授業観察等の意見交換などを通して、授業の評価・改善が進められるようにしていく。 ○習熟度別算数では、東京ベーシックドリルの活用も進んだ。それぞれの習熟度に応じた指導法で学習活動が進められるよう来年度も継続していく。基礎学力の向上として、3年生以上で九九の検定の取り組みを始めた。実態把握ができたので、今後は、担任との連携を密にとり個に応じた取り組みが進むようにする。1・2年生についても習熟度別算数を実施しているが、こちらでも、基礎基本の確実な習得を目指す。 ○各種学力調査から、基礎的・基本的な内容を中心に継続して指導法改善を進めていく必要があることが改めて分かった。取り組みを始めた九九の検定や読書活動などを学力向上につなげていくことが課題である。 ○「恩一小150選」の選定図書の一部改選した。低学年児童の取り組みは熱心だが、高学年児童の読破数はなかなか伸びなかった。来年度は、150という数にこだわらず、実効性のある取り組みを模索していく。	
児童	豊かな心の醸成	①縦割りの班活動の活性化 ②「恩方第一小学校いじめ防止基本方針」の周知・徹底 ③あいさつの推進 ④郷土学習（地域教材・地域活用単元の開発）の推進 ⑤相談・支援体制の充実	①縦割りの集会や遊びをはじめとした縦割り班を生かした活動の、およそ月1回の実施（実施状況） ②いじめ対策委員会の定期開催による全職員の共通理解（実施状況） ③あいさつの様子を確認し、状況に応じた推進を年間で実施（実施状況） ④郷土学習を継続実施できるようコーディネーターとの連携（実施状況） ⑤SC（年38日）、巡回心理士（年40時間）を活用し、児童の心の安定を図る（実施状況）
		経過・達成状況	

	○縦割りの班活動は校内研究と連動させた。年間を通して話し合い活動を中心に活性化が図れた。来年度は、今年度の成果を継続させて異学年交流を進めていく。 ○毎週のいじめ対策委員会により、全校体制でいじめの実態把握、早期発見・早期対応の取組を進めた。児童同士のトラブルが大きくなる前に解決することを目指し、初期対応が不十分なケースが発生しないよう、保護者との連携も迅速に進めた。今後も、継続をしていく。 ○児童会によるあいさつの取り組みも行ったが、一過性のものに終わってしまった。来年度は、あいさつの定着に向けて、年間を通した意識化した取り組みに再挑戦する。 ○各学年で地域教材の活用を推進することができた。6年生の、西川古柳座の指導による八王子市の郷土芸能「車人形」の体験は、郷土恩方への理解を深める活動となっている。学校コーディネーターとの連携による活動も充実していて、地域の魅力を実感し親しむ心を育成することができた。 ○スクールカウンセラーによるカウンセリングや、巡回心理士による授業観察、フィードバックを積極的かつ有効的に活用することができた。	
健やかな体の育成	①基礎的な体力の向上 ②保健教育、食育の意図的・計画的な推進 ③安全教育の充実	①体力テストの結果分析の活用と日常運動の通年実施 ②校医、給食室との連携。日常的な保健・給食指導の充実 ③様々な想定の下で避難訓練を年間11回実施 (避難時間5分以内)
	経過・達成状況	
	○運動への興味関心を高めるため、引き続き、体力テストの記録を校長室前に掲示している。体力テストの結果の活用が進まなかったことへの課題意識はもてたので、次年度の取り組みにつなげていく。 ◎もったいない大作戦をはじめとした給食室との連携により食育を充実させている。保健室の廊下に児童向けの保健指導の掲示を行い、自分の体に興味をもたせる工夫をした。 ◎避難訓練では、各回で想定を変えることで、状況に適した避難について考えることができるよう実施した。避難に要する時間は、ほぼ毎回5分を切ることができた。集中して訓練に取り組む姿勢を育むことができ、着実に避難行動が身に付いている。	
教職員	①人権意識の向上 ②校内研修で授業力向上 ③主任層によるOJT研修 ④授業観察による授業力向上 ⑤特別支援教育指導スキルの向上 ⑥服務規律を遵守する。 ⑦ライフ・ワークバランスの確立	①校内外における人権研修会への参加促進、掲示物点検、体罰チェックリストの活用（実施状況） ②低高ブロック各1回研究授業を実施 ③ニーズに合わせたOJT研修を実施（実施状況） ④意図的・計画的な授業観察を年3回実施 ⑤校内委員会、支援体制の一層の実質化 ⑥就業規則の提示と服務事故事例の紹介（実施状況） ⑦有休取得率の向上と日々の在校時間の短縮 ノー残業デーと学校閉庁日の設定（毎月1回 夏季5日）
	経過・達成状況	

	○児童の訴えや保護者の意見等も参考にしながら、日々、教職員の人権意識の向上に取り組んでいる。また、弁護士を講師に招いた研修会も実施した。 ○特別活動の、低学年と高学年、縦割り班での話し合い活動で研究授業を実施した。話し合いを通して、相手の気持ちを考えた言動ができるような手立てや展開について、実践に基づいた協議を進め、講師からの助言を得て、授業力向上の機会とした。 ○教員相互が担当者となり、それぞれの専門や得意分野等の内容のOJTを実施した。主幹教諭による進行管理で進められた。今年度は担当者による内容決定での取り組みだったので、今後ニーズに応じた研修ができるか検討する必要がある。 ○各学期1回ずつ授業観察を実施した。観察後の指導や意見交換を授業改善につなげている。また、授業観察時には全教員に事前に周知し、お互いに授業を見合えるようにしている。 ○全教員が集まる校内委員会で特別支援についての情報交換を行うことで、児童の状況を共有し、指導に生かすことができるようにしている。また、特別支援教育コーディネーターの声掛けによる、ミニ研修も行っている。学期に1回程度のスクールソーシャルワーカーとの情報交換も実施している。 ○おおよそ月2回の服務事故事例の紹介により注意喚起を継続して行い、規範意識を高めている。 ○全体として職員の勤務時間を超えた在校時間は確実に短くなっている。月1回のノー残業デーの設定は不要となった。学校閉庁日は予定通り設定した。	
保護者地域	①学校便りの形式や表現方法等の工夫 ②学校便りの発行計画を作成 ③学校評価の活用 ④学校運営協議会との連動 ⑤放課後子ども教室の円滑な実施	①学校便りを毎月発行 ②各学年の情報を発信できるように計画する ③学校評価の年2回の実施と結果のその反映 ④学校運営協議会委員と学校職員との意見交換の実施（夏季休業中に実施） ⑤施設利用の連絡・調整（実施状況）
	経過・達成状況	
	○保護者や地域に学校の教育目標を知らせるために、毎月の学校便りに教育目標を掲載するようにした。学校便りの巻頭言は、今後も、教育目標と時季や教育活動を関連させた内容になるようにする。 ○保護者にはHome&Schoolで学校便りをはじめとしたお知らせを配布している。また、学校便りでは各学年の情報を一斉に掲載している。 ○学校評価保護者アンケートでいただいた評価を真摯に受け止め、職員間でも共有し、改善に努めている。回収率の向上が課題である。 ○学校運営協議会と学校職員とで意見交換を行う場・懇親の場を設定した（台風で10月に延期）。また、学校運営協議会が中心となり、開校150周年の行事の一つである日時計・タイムカプセルが完成した。校地南側法面の一部では、環境美化や土留めとして芝桜の植栽を行った。その際に、社会福祉協議会からの紹介のボランティアを活用できた。今後、植栽の面積が広げられるよう、学校運営協議会と検討をしていく。 ○放課後子ども教室や近隣保育園である恩方保育園への施設貸し出しは円滑に進められた。今後は、保幼小連携の取り組みの充実も図っていく。	